

特別の教育課程の編成方針

令和8年度 印西市立西の原小学校 特別の教育課程の編成方針

1 特別の教育課程の内容

(1) 教科、時数等

小学校第1、第2学年において「外国語活動」を行う。

- ・第1学年は生活科を34時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・第2学年は生活科を35時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・全学年の「外国語活動」及び「外国語科」の名称を、「英語科」とする。

(2) 実施期間

令和8年4月1日～

2 特別の教育課程を編成する必要性

(1) 印西市の取組から

印西市においては、小・中学校へ週1～5日、幼稚園へ月1回、外国人指導助手（ALT）を配置し、主に授業を通して異文化や外国語に触れることを体験し、コミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成している。また、全小学校に英語教育コーディネーターを配置し、外国語活動及び外国語科の充実を図っている。また、イングリッシュアカデミーホップ・ステップ（小学校3～6年生対象）・ジャンプ（中学校2・3年生対象）を開催し、英語コミュニケーション能力の向上や異文化理解を深め、国際化に対応できる人材の育成を図っている。

このように、市全体で外国語教育の充実を図ってきたところである。

現行学習指導要領の下においても、全学年の外国語教育の量と質を確保し、中学校へのスムーズな接続やさらなる授業改善に努めていくため、1、2年生の「外国語活動」を実施する。

(2) 本校の取組から

本校では、学校教育目標の「豊かな心をもち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」を図る中で、「外国語活動」「外国語科」においても、市の取組を踏まえ、6年間の系統性を踏まえた外国語教育に取り組むと共に、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や聞く・話す能力の育成に力を入れてきたところである。

特に、低・中学年では、児童が日常的に英語に慣れ親しむことができるよう、イラスト等の学習教材の充実を図るとともに、なじみのある歌で楽しみながら、外国語指導助手（ALT）及び英語教育コーディネーターのネイティブな発音を聞くことのできる環境を整えた。また、高学年では、ICT教材も積極的に活用し、英語を使った児童同士のやりとりや外国語指導助（ALT）等とのやりとりを通して、自分の思いを伝えることや相手の思いを理解し、コミュニケーションの楽しさを感じられるよう、学校全体で授業改善に取り組んできた。中学校との連携も意識し、フォニックスにも積極的に取り組み、中学校とのギャップがなくなるよう努めている。その成果として、本校児童の6年生の約85%が「外国語科の授業が好き・どちらかというところが好き」と回答している。

これらの取組を継続・発展させることにより、児童の聞く・話す能力をより高め、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するため、特別な教育課程による低学年からの英語教育を実施する。

3 特別の教育課程を実施するにあたっての配慮事項

- ・生活科の削減分については、年間指導計画を見直し、生活科の目標を達成できるようにする。
- ・市教委作成の指導計画を活用し、1、2年生の児童の発達段階や3、4年生の「外国語活動」への接続、6年間の系統生を踏まえた活動となるようにする。
- ・授業は担任等と外国語指導助手（ALT）・英語教育コーディネーターとのチームティーチングで行い、ネイティブの発音に繰り返し触れることができるようにする。
- ・英語を取り入れた校内環境整備や外国語指導助手（ALT）を活用した授業づくりなど、児童が英語に慣れ親しめるような環境づくりを学校全体で計画的に行う。
- ・特別の教育課程について、保護者や地域住民、学校関係者への周知を行い、理解を得る。